

2013年10月8日

各位

中外製薬ウェブサイト『個別化医療が可能にする未来』を新規公開 — 個別化医療についてアニメーションでわかりやすく解説 —

中外製薬株式会社〔本社：東京都中央区／代表取締役会長 最高経営責任者：永山 治〕（以下、中外製薬）は、中外製薬ウェブサイト内に、特設コンテンツ「個別化医療が可能にする未来」を新たに公開しましたのでお知らせいたします（下記 URL）。

『個別化医療が可能にする未来』: <http://chugai-pharm.info/phc/>



ある病気に対して同じ薬で治療を行っても、その効果や副作用は患者さんによって差が生じることがあります。これは、それぞれの患者さんで病気に関係する異なった分子・遺伝子情報を持つことが原因となっています。個別化医療は、この分子・遺伝子情報の違いに着目し、患者さんの病気の特性に合わせて治療を行うものです。

個別化医療では、病気の原因や進行に関係する患者さんの体内にある分子のみに作用する「分子標的治療薬」と、「バイオマーカー」と呼ばれる患者さんそれぞれによって異なる特定の分子や遺伝子が、中心的な役割を担っています。最初に薬を投与する前に、バイオマーカーを検出・測定するコンパニオン診断薬と呼ばれる検査薬で、患者さんの病気の特性を調べます。この結果に基づいて、薬の効果がより期待でき、副作用がより少ないと思われる患者さんのみを対象に分子標的治療薬などを投与します。

中外製薬は、1980年代前半よりバイオ医薬品の研究開発に取り組んできました。2012年には、個別化医療に基づく医薬品とコンパニオン診断薬の同時開発を進めるため、F. ホフマン・ラ・ロシュ社 [本社：スイスバーゼル市／CEO：セヴリン・シュヴァン] 診断薬部門の保有する全ての診断技術へのアクセスについて包括契約を締結しました。国内においても、ロシュ・グループ診断薬部門の日本法人であるロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 [本社：東京都港区／代表取締役社長 兼 CEO：小笠原 信] (以下、RDKK) との協力体制を整備し、研究開発の早期段階から積極的な連携を進めています。こういった、これまで培ってきた経験や新たな診断技術へのアクセスにより、分子標的治療薬ならびにバイオマーカーの探索において業界屈指の研究開発力を有しています。

新コンテンツ『個別化医療が可能にする未来』では、「個別化医療とは」「個別化医療のあゆみ」「もたらすメリット」「活用されている病気」「中外製薬の取り組み」等についてアニメーションやイラストを交えてわかりやすく解説しています。また、個別化医療で用いられる医薬品やコンパニオン診断薬の研究開発に取り組む中外製薬、RDKKの社員のメッセージも紹介しています。

中外製薬は、個別化医療で世界の最先端を走るロシュ・グループの最重要メンバーとして、より多くの方々に個別化医療に対する理解を深めていただくとともに、個別化医療のさらなる推進に努めてまいります。

以上